

海外安全対策情報（2022 年 7 月～9 月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）全般

ボゴタ市、メデジン市、カリ市等の都市部を含め、窃盗・強盗の一般犯罪被害が昼夜を問わず多発している。比較的治安が良いとされる地域でも、飲食店内の置き引き、バイクを利用した強盗・ひったくり、夜間の路上強盗等の発生が見られる。また、SNSを通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乗じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官に成りすまして職務質問を装い金品をだまし取る等、様々な手口の犯罪が見られる。

2022 年 4 月下旬以降、ボゴタ市で週末のバイク二人乗り等についての規制が始まり、2022 年上半期の強盗やひったくりの発生件数はやや減少傾向であった。しかしながら、報道によると 8 月下旬からボゴタ市内北東部で大型バイクを利用した武装犯罪者による強盗事件が発生しており、ボゴタ市内全域で 1 日に平均 290 件（1 時間に 12 件）の強盗事件が登録されている。これらの件数は、あくまでも被害届を提出した事件数であり、届け出ない被害者が一定数いると考えられるところ、実際の犯罪発生件数はより多いと思料されることから、平穏な日常生活には十分な注意が必要である。

被害に遭わないためには、人気のない道路は日中でも注意する、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え、絶対に抵抗せず、盗まれた物を取り返そうとしてはいけない。

（2）邦人犯罪被害事案

- ・ 7 月上旬午後 10 時半頃、ボリバル県カルタヘナ市を観光で訪れていた邦人がホテル前に停車していたタクシーに乗車し移動しようとしたところ、目的地とは違う場所に連れて行かれ、クレジットカードやスマートフォン、現金などを強取された上、クレジットカード等の暗証番号を聞かれるなどの短時間誘拐による強盗被害が発生。被害者は数時間後に郊外で解放。
- ・ 所用でボゴタ市を訪れていた在留邦人がチャピネロ地区のショッピングセンター付近を歩行中、上衣のポケットに入れていたスマートフォンを何者かにすられる窃盗被害が発生。
- ・ 7 月 30 日、ボゴタ市内の calle 80 を走行中に道路に仕掛けられたまきびし様のもので、在留邦人の運転する車両のタイヤがパンクさせられ、親切を装い男が近づき修理工場を紹介しようとしたが、いわゆる「ぼったくり商法」であると見抜き、車両同乗者がタイヤ交換し、難を逃れた。
- ・ 9 月 19 日、車両の助手席に乗車したままの私服警察官を名乗る女性に、

身分証明書や所持品を提示するよう指示された在留邦人が、指示どおり所持品等を同女に手渡したところ、車両の運転手が車を発進させ立ち去る窃盗被害が発生。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

E L N、F A R C 離反兵等の反政府武装組織の活動が活発な地域において、治安当局やインフラ施設に対するテロ事件が発生している。ボゴタ市では2017年6月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む3名が死亡する無差別テロ事件が発生、2019年1月にも市内の警察学校内で学生22名が死亡するE L Nによる自動車爆弾が発生しているほか、本年3月26日にはボゴタ市南部のシウダー・ボリーバルの交番（C A I）の外周に仕掛けられた爆弾が爆発し、付近にいた児童2名が死亡、勤務中の警察官1名を含む25名が負傷、交番付近の家屋等約50戸に物的被害が生じており、今後もテロへの警戒は必要である。

ペトロ大統領の呼びかけにより、多くのゲリラ組織や武装犯罪組織が和平交渉を始め、現時点では一般市民が巻き込まれる大きなテロは発生していないが、これら組織の活動が活発な地域では警察署や軍の基地等、治安部隊に対する攻撃は相変わらず発生していることから、こういった場所に不用意に近づかないことが大切である。

- ・ 7月17日 カウカ県エル・ボルド市で、バイク爆弾が爆発、市民1人が死亡、13人が負傷した。警察のパトカーが通過する際に合わせて爆破させた模様。
- ・ 7月20日 スクレ県シンセレホ市で、警察のCAI（日本の交番のような警察官が駐留する建物）の近くに爆弾が投げ込まれ、警察官7人が負傷。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

E L N等の反政府武装組織や麻薬犯罪組織が、身代金目的の誘拐、恐喝、脅迫を行い、資金源としている。都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、タクシーアプリや無線タクシーを利用し流しのタクシーは利用しない等の注意が必要である。